

ともた談話



2023 年 7 月 24 日発行

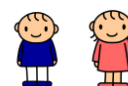
今回は個別の教育支援計画についてのお知らせと、特別支援学校高等部への進学について、自立活動研修の様子について掲載しています。是非ご一読ください。

1 個別の教育支援計画について

個別の教育支援計画は、児童生徒の教育的ニーズに基づき、保護者や関係機関と連携を図りながら、長期的な視点で教育的支援を行うことを目的に、学校が作成するものです。そして、希望に近い地域生活の実現を願い、児童生徒や保護者の教育的ニーズを把握するとともに、福祉、医療、労働等の関係機関と連携を図りつつ、小学部から高等部卒業までの長期的な視点に立って、一貫して的確な教育的支援を行っていくための計画となります。



本人を深く理解するために

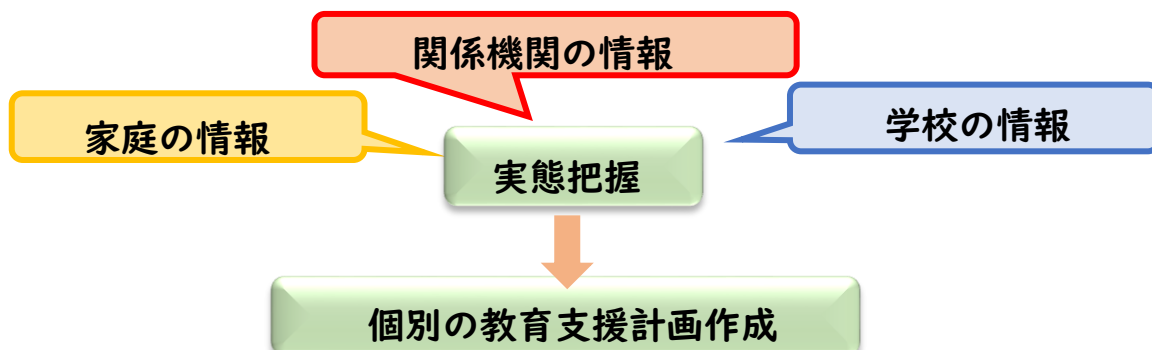
成長過程や「願い」の“記録”
として残すために関係機関と情報交換を
スムーズに行うために

個別の教育支援計画

必要な指導、支援、配慮を
検討するために担当者が変わったとき、
引継ぎを確実にする
ために

作成について

個別の教育支援計画の作成に当たっては、保護者の意向を踏まえつつ、関係機関等と本人の支援に必要な情報の共有を図ります。



実態把握の際には、学校の情報だけでなく、家庭や関係機関からの情報を踏まえて多面的にとらえる必要があります。ご協力よろしくお願いします。

具体的な内容

様式1 フェイスシート

内容

本人の出生から経歴と最新情報が記載されます。

有効期間

高等部卒業時（または転学・退学時）まで

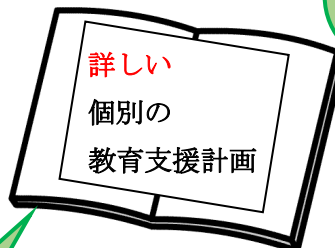
様式2 週間生活スケジュール

内容

1週間の生活の予定表です。

有効期間

変更があれば更新



様式3 個別の教育支援計画

内容

本人と保護者の希望、課題、目標などが記載されます。

有効期間

長期目標の有効な期間を通して

様式4 相談・支援の記録

内容

各機関に相談した内容や相談先などが蓄積されていきます。

有効期間

高等部卒業時（または転学・退学時）まで

活用について

- ① 学校での支援目標だけではなく、関係機関の支援目標や評価についても、できるだけ書き加えていきます。

関係機関の方にも目標などをお聞きください。手書きで書き加えていただいてもけっこうです。すでに書面（支援計画など）をもらっていましたら、一緒にファイルにつづります。

- ② 将来に役立つ「記録」になるように

このファイルを見せることで、どこの帰還でもお子さんの実態が把握しやすくなる記録にしましょう。未確認の項目や書かれている内容について、指導グループ担当から詳しくお聞きすることがあります。ファイルに記入したくない情報については、そのご意向を尊重します。

- ③ 「評価」欄などは、分かりやすく要点のみの記述となっています。

関係機関の方にも素早く目を通していただけるように「達成できたかどうか」についての記述が主となります。学校での取り組みの様子は、「個別の指導計画（評価）」に詳しく記入されます。

- ④ 前年度の個別の教育支援計画が指導グループ担当から返却されますが、お子さんが二十歳になるまでご家庭で保管されることをお勧めします。

市町村のサポートファイル（「つなぐっと」「めむたっち」など）をお持ちの方は、個別の教育支援計画と一緒に保管されることをお勧めします。将来の障害基礎年金申請の書類作成時に役立つ情報となります。

個別の教育支援計画の一時返却について

個別の教育支援計画の一時返却を9月と2月の個別懇談時（高3は2学期終業式）に行います。返却時以外は個別の教育支援計画は学校に保管しておりますが、保護者の方が関係機関への訪問等が必要になった場合は、随時返却いたしますので、指導グループ担当までお知らせください。

今後とも「個別の教育支援計画」をよりよくご活用いただけるよう、保護者の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

また、相談支援部では、相談支援事業所などの情報提供も行っておりますので各指導グループ担当にお気軽にお声がけください。

2 自立活動研修2「ビジョントレーニング」報告

6月中旬、教員17名が参加し、「ビジョントレーニング」の基礎的な学びを深めました。実践例では、「机上課題で手元は動いているけれど、対象物を全然見えていない」「階段の昇り降りでは腰が引けて怖がる」等の困り感がある児童生徒に、「見る力」を意識して指導した結果、注意が持続し課題に一定程度集中して取り組めるようになったことや、階段昇降時間が短縮した等の子供達の変化について報告がありました。複数の教員で子供の様子を共有することや、継続することで大きな成長が見られたことも確認できました。参加した教員から「ビジョントレーニングの効果がよくわかった。すぐに取り組みそうなことを子供達にやってみたい。」という声もあり、今後の支援に生かしていきたいと思います。



3 特別支援学校高等部への進学について

「将来、どんな生活を送りたいか・・・」この考えが、自分の進路を決定します。進路先は、様々あります。ここでは、高等支援学校と高等部の違いをご紹介します。それぞれの学校の詳細については、それぞれの学校の教育相談等でお聞きください。

1 十勝にある高等支援学校、高等部

設置学科	特別支援学校	教育課程（どのように学ぶか）
職業学科	中札内高等養護学校 中札内高等養護学校幕別分校 新得高等支援学校	<u>専門学科（家政、農業、工業、木工、窯業）を中心とした教育課程を編成・実施し、企業等に就職することを目指す。</u>
職業学科に設置している普通科	中札内高等養護学校	<u>国語、数学、社会などの教科の学習を行いながら、就業体験、ボランティア活動の経験をと</u> <u>おして幅広い知識や技能を身に付け、職業自立、社会自立を目指す。</u>
普通科のみ設置している学校	帯広養護学校高等部 普通学級 重複学級 訪問学級	将来の家庭生活を想定し、基本的な生活習慣に関する内容を一人で行えるようにしたり、他者の支援を受け入れたりする学習や、 <u>実際の生活の場面と結び付けて教科の学習を行う生活単元学習などを中心に学習する。</u>

※ 高等支援学校では、企業等へ「就職」する生徒が多い傾向があります。また、普通科のみ設置している学校は、「福祉的就労（生活介護、就労支援A型、B型等）」が多い傾向があります。

2 進路を決定するにあたって

「高校受検と言えば中学部3年生」というイメージをもっていないですか？たしかに受検をするのは3年生ですが、それまでの準備は小学部のときから始まっています。

「中学部卒業後の学校をどう選ぶのか」は、どのような生き方をしていきたいか？という大切な選択となります。お子さんや保護者が進め方を理解した上でしっかりと話し合い、最終的には本人が決められるような進路支援が望ましいと思われます。

進路先を決める際に大切なことは、「学校の特色（教育課程）の違いについて理解する」「本人の将来像についてイメージをもつ」「本人が『この学校に通いたい』と希望をもつこと」が挙げられます。



高等支援学校と高等部の違いは・・・

(1) 学び方が違う (2) 卒業後の生活の傾向が違う

これを踏まえて・・・

①受検しようと考えている学校の作業体験会や学校公開、教育相談を受ける。

→実際に見て、聞いて、体験する。

通学方法、学習内容、学習集団など諸条件を検討する。

②お子さんと一緒に受検先を考える。

③分からないことがあれば指導グループ担当に聞く。

積極的に学びたいと思える出願先を選択できるよう、お子さんと保護者が納得して決めることが大切です。

参考・引用文献：「令和5年度 特別支援学校高等部の進路に関わる合同説明会～特別な配慮を要する生徒の進路を考える先生方へ～」資料